

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
2023年度第3回指導医制度委員会議事録

日 時:2023年11月27日(月)18時~18時40分

場 所:zoom

参加者:田中 信弘(担当理事)、相澤 俊峰(委員長)、伊藤 康夫、坂井 顕一郎、
竹林 庸雄、星野 雅俊、森本 忠嗣、宮崎 正志、吉田 剛、渡邊 航太、橋本顕二
(事務局)

欠席:出村 諭、平井 高志

議事

1. 2023年度の指導医「継続」申請の審査結果

- 継続申請:197名 → 合格:196名
- 継続猶予申請:2名 → 認定:0名
- 名誉申請:0名
- 継続及び継続猶予申請の不合格の理由は、日整会脊椎脊髄病医の失効及び学会への参加し忘れであった。

2. 2023年度の指導医「新規」申請の審査結果

- 新規申請:101名 → 合格:101名
- 書類不備等で再審査があったが、最終的には全員合格となった。

3. 新規申請書類の「代表的執刀手術 30例 実施施設責任者の証明書」について

- 代表的執刀手術 30例を入力するエクセルの様式に、実施施設の入力欄があり、施設名がわかるのにも関わらず「施設長または所属長」の証明書をつける必要があるか、という疑問が出された。
- 自施設で確かに執刀したという証明であるため、現行の方式を継続することとなった。
- 今後、JSSR-DBの症例が増えれば、再度見直すこととする。

4. 新規申請での同一術式の割合について

- 新規申請で内視鏡手術が大部分を占める申請者がいたが、現在同一術式の割合を定める基準がない。
- 指導医は継続の場合にはある疾患、手術に特化した“名医”は珍しくないが、新規申請者には一般的な脊椎外科手術を後輩に指導できる技量が求められる。一つの術式に特化しているのは望ましくない。
- 次回の新規申請からは腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頰椎後方除圧術各 20 例、頰椎前方固定術 5 例、脊髄腫瘍、胸椎または腰椎前方固定術、頰椎後方固定術、腰椎後方固定術各 1 例が必須とされ、これで 69 例を占める。
- 議論の結果、新規申請者は執刀 200 例のうち「同一術式による手術は 50% 以内に留めることが望ましい」という文言を申請の注意に加えることとなった。

5. その他(2024・2025 年度の審査/2026 年度以降の指導医の審査基準)

2024・2025 年度は新規申請の審査はないが、継続・猶予申請の審査は例年通り行われること、2026 年度以降の新規申請の審査基準が変更になったことが理事会でも承認されたことが報告された。

田中担当理事からの、これまでの協力に対する謝辞の後、18 時 40 分に閉会した。

文責:相澤 俊峰